

我が国の地球低軌道活動の充実・強化に向けた取組の方向性（概要）

第12期 国際宇宙ステーション・国際宇宙探査小委員会における議論の整理

1 意義と検討の背景

- 地球低軌道活動の意義
 - ✓国際宇宙ステーション(ISS)参加による有人宇宙技術の獲得、知の創造・社会課題解決、新ビジネス・サービス創出、人材育成・国際協力
- 今後の地球低軌道活動～ISSとポストISSの見通し～
 - ✓2030年頃のISS運用終了
 - ✓米国では民間が次の宇宙ステーションを管理する方針
- 国内もポストISSは、民間主体への移行を想定



持続的・安定的な地球低軌道活動に向けた準備が必要

2 これまでの成果と課題

- 地球低軌道活動での様々な成果創出と価値提供
 - ✓ISS日本実験棟「きぼう」での宇宙環境利用、宇宙ステーション補給機「こうのとり」、日本人宇宙人飛行士の活動、科学的研究成果の創出、商業利用拡大、国際協力、人材育成・理解増進等
- 今後の利用充実・拡大に向けた課題
 - ✓所要コスト・時間、手続、機会・頻度、事業成立性、ニーズ適合性等



現行ISSを使い尽くして
ポストISSへ移行することが必要

3 今後の地球低軌道活動の充実・拡大に向けた取組方策

1. 基本的な考え方



- ✓多様な主体の参画によるすそ野拡大・民間主体の活動を促進
- ✓ISSと今後のポストISSの利用を連続的・一体的に検討
- ✓民間事業者が次の宇宙ステーションの管理を行い、(我が国は)JAXAが利用サービス調達(技術実証や科学的研究等)でそれを支える



2. 取組の考え方（① ② ③ の3本柱）



- | | |
|---------------------------------------|--|
| ① 地球低軌道利用での研究力・イノベーション創出力の強化 | <ul style="list-style-type: none">● JAXAの科学研究・イノベーション創出機能強化 ✓JAXAラボ機能 ✓オープンイノベーションハブ機能● 大学等の地球低軌道を活用した研究の推進機能の強化 ✓基礎・基盤的研究支援機能 等 |
| ② 地球低軌道利用での多様な主体の参加拡大と商業的活動の発展 | <ul style="list-style-type: none">● 民間主体の先端技術・ユースケース開発への支援 ✓オープンイノベーションハブによる橋渡し機能 ✓先端技術支援● 地球低軌道活動に対する民間事業者への予見性確保● 多様な主体、民間による地球低軌道活動への参加のためのJAXAの助言機能強化・民間連携の推進 ✓民間事業者の活用推進 ✓技術的助言機能 |
| ③ 我が国の地球低軌道活動を支える総合的基盤の整備・強化 | <ul style="list-style-type: none">● 宇宙飛行士を含む有人宇宙活動・宇宙環境利用研究に関する基盤技術実証の促進● 参加・利用拡大のための機運醸成<ul style="list-style-type: none">● 教育的利用・理解増進等を通じた次世代人材育成（インターフェース人材・JAXA人材育成等）● 国際調整を含む制度的基盤の検討・整備<ul style="list-style-type: none">● 取組方策全体のプログラム推進体制の構築 |

4 各主体の役割の考え方等

- 企業、大学等、JAXA、国（政府）の役割の考え方
- 今後の検討課題 ▶ 研究・事業の特定等